

ご自由にお取りください

# ゆい ちゅうぶ

# 3

2025  
vol.92



pick up!

## 骨折連鎖の防波堤～整形外科チームの取り組み



「施設管理室」の紹介

「当院の新たな取り組み」

A day in the life of... ～放射線診断科～



pick up!

## 整形外科の地域連携

# 骨粗鬆症患者の二次性骨折予防



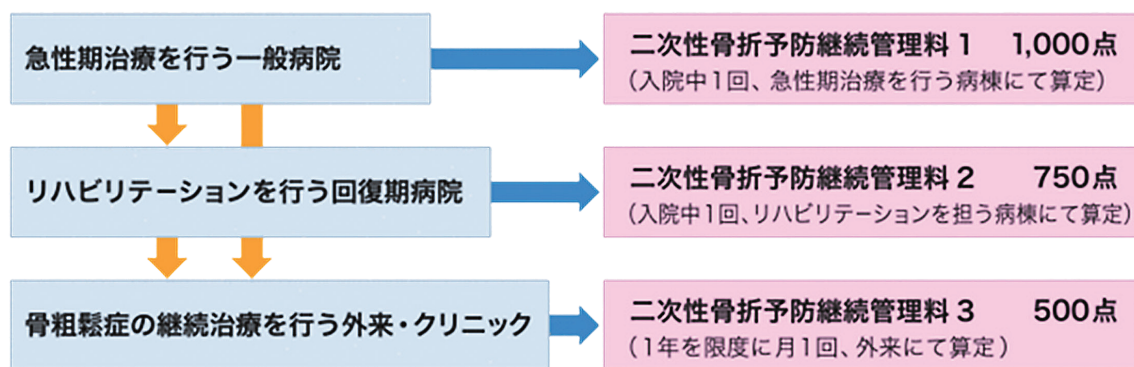
整形外科・普天間医師

現在、当院では骨粗鬆症を背景とする骨折の患者さんが年々増加しています。昨年度の手術件数は678件にのぼり、そのうち約86%が外傷によるものでした。特にご高齢の方の転倒による骨折が多く見られ、社会全体として骨折予防の重要性が高まっています。こうした背景を受け、2022年の診療報酬改定により、骨粗鬆症患者さんの二次性骨折を防ぐための地域医療連携の取り組みが始まりました。

## 整形外科領域の地域医療連携

沖縄県中部地区の急性期病院に所属する整形外科医師が集い、骨粗鬆症治療の継続と二次性骨折予防のための連携の在り方を模索しています。

重要なことは、急性期病院で手術を受けた患者さんに対し、適切なフォローを地域で継続して行うことです。下の図は、地域の医療資源を適切に活用した際の診療報酬の仕組みを示しています。



二次性骨折予防継続管理料算定資料 一般社団法人 日本骨粗鬆症学会 HP

急性期治療を行う当院において、大腿骨近位部骨折の手術が早期に実施可能な体制を整えております。さらに、急性期リハビリテーション、骨粗鬆症の評価、薬剤選択を速やかに実施し、適切な治療方針を決定しています。連携先の回復期リハビリテーション病院へ転院後は、より手厚いリハビリテーションをご継続いただいています。

リハビリテーション終了後は、かかりつけのクリニックにおいて骨粗鬆症治療を継続いただくことで、長期的で適切なフォローが実現しています。

## 地域で支える骨折予防

高齢者の骨折連鎖を防ぐため、急性期医療機関・回復期医療機関・かかりつけクリニックが密に連携し、中部地区における骨折発生の予防に貢献できることを願っています。特に、骨折の外科的治療に馴染みが少ないと思われる内科の先生方との連携が鍵となります。

骨粗鬆症治療薬の処方、我々の取り組みを支える重要な要素です。今後も密な情報交換を通じ、より良い医療連携を築いていきたいと考えています。



# 施設管理室

## 病院設備機能維持のエキスパート

わたしたち施設管理室は、事務部の設備・調達課に属し、施設管理技士3名、電気主任技術者1名(委託職員)と設備運転技術員12名(委託職員)で構成され、24時間365日、病院内の建物や設備の維持管理を行っています。

施設管理室の業務には、機械設備の運転保守管理業務と水栓やトイレの修繕や木工作业などの営繕業務、設備の更新や建物の建築改修における工事・修繕監理業務などがあります。特に設備を維持管理するには、その設備・機器に応じた法令に基づいて管理しなければならないため、各種国家資格等を取付した職員が配置されています。多くの業務がありますが、その一部についてご紹介します。



### 設備保守管理業務

中央材料室や厨房、シャワー手洗いなどの蒸気や温水に利用されている蒸気を作る大型ボイラー設備の運転・修繕対応や、外気を取り込んで温度や湿度を調整するための外気空調機の点検、グリスアップ、ベルト交換、フィルター洗浄などの保守作業、室内の温度を調整する空調設備のフィルター清掃や不具合発生時の一時対応などを行っています。



### 設置設備機器の一部紹介

- 外気空調機：60台
- ファンコイルユニット(室内空調機)：885台
- HEPAユニット(高浄度室内空調機)：123台
- パッケージエアコン：106台

これら設備機器のメンテナンスを、スケジュール管理のもと実施しています。



### 営繕業務

手洗いや流し台の水栓からの水漏れやトイレの詰まり除去作業、各部署からのオーダーによる棚の作成、空調機からの水漏れや雨漏れなどの仮処置と原因究明などといった、トラブル時の対応があります。

電話依頼及び  
修繕依頼書による  
修繕業務件数

令和4年度：2,043件

令和5年度：2,284件



### 工事・修繕監理業務

院内における建築改修工事や設備機器更新工事において、設計業者との設計調整や、施工業者との調整、工事施工における施工管理、安全管理、品質管理などの工事に関わる各種監督業務も行います。

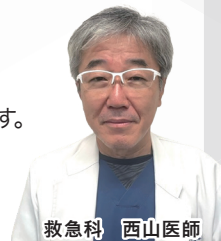


### 施設管理室スタッフの取得している資格一覧

ボイラー取扱主任者、ボイラー整備士、ボイラー・タービン主任技術者、危険物取扱者、冷凍機械製造保安責任者、電気主任技術者、電気工事士、高圧ガス製造保安責任者、エネルギー管理士、消防設備士、衛生管理者、認定ホスピタルエンジニア、管工事施工管理技士、電気工事施工管理技士、建築施工管理技士補、特定建築物調査員、被災建築物応急危険度判定士、建築物環境衛生管理技術者、自衛消防業務講習修了者など 約25種類

われわれは施設のエキスパートとして設備機器の不具合や故障をいち早く発見し、重大な損害が出る前に、迅速且つ的確な対応が出来るよう、常に最新の技術を学び経営マネジメントの一環として、施設マネジメント(FM)の考え方に基づいて、日々の業務に取り組んで参ります。

現在、当院の救急外来では高齢の患者さんが多く、軽度・中等度の内科的疾患で受診されるケースが増加しています。その結果、手術を必要とする重症度の高い患者さんのための病床を十分に確保できない状況が生じています。この課題に対応するため、当院では2024年度より、新たに「下り搬送」と「急性期在宅」の仕組みを導入しました。



救急科 西山医師

「下り搬送」とは

2024年度の診療報酬改定が目玉として開始された取り組みです。具体的には、当院の救急外来に来院された患者さんのうち、比較的病状が安定している方で入院が必要な患者さんを、直接、地域の連携医療機関に搬送し、治療の継続を依頼する仕組みを指します。

「急性期在宅」とは

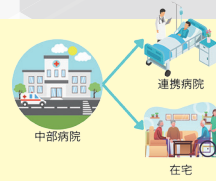
離島医療の研鑽を積んだ地域ケア科の若手医師が中心となり、本年4月から運用を開始しました。救急外来や病棟から訪問看護師と連携し、在宅医療へと移行する仕組みです。患者さんは、地域ケア科医師のサポートにより、入院することなく、住み慣れた環境で治療を継続することが可能となります。

適切なケアの提供と ADL の重要性

これらの取り組みにより、患者さんの容態に応じた適切なケアを、地域の医療機関や訪問看護ステーションとの連携を通じて提供できるようになりました。この適切なケアの実現において、重要なキーワードが「ADL (Activities of Daily Living: 日常生活動作)」です。ADLとは、食事・移動・着替えなど、日常生活に欠かせない基本的な動作を指します。患者さんのADLを低下させず、生活の質を維持することが医療の重要な目標の一つです。そのためには、医療・介護の事業者の皆様との緊密な協力が欠かせません。

今後の展望

当院では今後も、患者さんの病状や生活環境に応じた適切な医療提供を目指し、地域の医療機関や介護事業者との連携をさらに強化してまいります。この取り組みを通じて、地域医療の持続可能性を支えるとともに、患者さんやそのご家族に安心と信頼を届ける医療を提供していきたいと考えています。



第34回

A day in the life of ○○○ ～病院で活躍する職員の日～

放射線診断医  
の1日

当科では昨年はCT20373件、MRI5202件、核医学検査442件、血管内治療・検査(アンギオ)239件が施行されました。当院は画像診断管理加算3を取得しており、全件読影を行っています。また他院で撮影された画像についても、読影依頼に対応しています。昨年のアンギオは shunt PTA が94件と最多で、その他に予定症例では肝細胞癌に対するTACE(動注化学塞栓術)などを行っています。多発外傷、産後出血、咯血などの緊急動脈塞栓術にも対応しています。



放射線診断科医師  
城間 勇生

7:30~

毎週水曜日は外科カンファレンス(月に一度呼吸器カンファレンス)があり、2~4 症例の術前・術後の検討を行います。複数の科が参加し、放射線診断科は癌のステージや浸潤範囲の確認などについて、画像で言及します。



8:30~

予定のアンギオがなければ読影業務開始です。前日に撮影された画像も含めて、優先順位をつけて読影していきます。担当医が直接読影室へ問い合わせに来ることもあり、その際は担当医とディスカッションをします。

手技で起こりうる合併症と対策など、注意点は多岐にわたります。予定症例以外にも、緊急アンギオの症例が生じれば対応します。緊急症例は多発骨盤骨折、肝細胞癌の破裂、産後弛緩出血、術後仮性瘤、StanfordB型大動脈解離、大腸憩室出

血、動脈性出血による吐血、咯血、下肢急性動脈閉塞、シヤント血管の閉塞など様々です。それら手技が終了すれば、読影室へ戻り読影を再開します。



15:00~

CTガイド下で肺生検や腸腰筋膿瘍ドレナージをする事があります。高度気胸や血管損傷を起こさないよう注意し、慎重に穿刺針を病変へ誘導していきます。



17:00 終了

営業時間終了です。この時間までに撮影された検査をなるべく当日中に読影できるよう努めていきます。

